

霧島こどもみらいサミット（ワークショップ）
【実施報告書】

令和6年8月

霧島市

保健福祉政策課・子育て支援課

1 目的

「(仮称) 第 3 期霧島市子ども・子育て支援事業計画」に係るこども施策の策定等にあって、こども基本法においてこども(若者を含む)の意見の反映にかかる措置を講ずることが義務付けられていることから、こどもの意見を聴取することを目的に開催しました。

2 日時

令和 6 年 8 月 3 日(土) 午前 10 時 00 分～12 時 00 分

3 会場

霧島市役所 別館 大会議室

4 参加者

市内の高等学校、高等専門学校、専門学校、短期大学、大学 11 校の生徒及び学生 30 名

5 内容

育児やまちづくりに関するテーマについての課題や解決策や、各主体の役割をワークショップ形式で話し合ってもらいました。

実施方法	<ul style="list-style-type: none">・ 5 名× 6 グループによるワークショップ方式・ ファシリテーターを配置し、テーマに沿って意見交換、発表 <p>ファシリテーター： 塚本 薫氏(株式会社きらりコーポレーション 代表取締役)</p>
テーマ	各テーマに対して 2 グループを充てる ①男性が育児に関わりやすくするには?(A、B) ②若い世代が結婚するきっかけづくりとは?(C、D) ③若者が住みたいと思える魅力あるまちとは?(E、F)
プログラム	(1) 本日の進め方・自己紹介 (2) グループワーク(第 1 部) (3) 霧島市の現状について (4) グループワーク(第 2 部) (5) 発表 (6) アンケート

6 主な意見（アイデア）

グループワークの進行は、各グループの主体性に任せました。その結果、グループ内でアイデアを出し合い、出たアイデアをみんなで整理する時には一体感がうまれ、グループごとに工夫して整理する様子がみられました。

①男性が育児に関わりやすくするには？（A、B）

- ・男性のみで育児についての考えを交換する機会を作る
- ・偏見を少なくできるように、育児の大変さが分かるデータを見せつける！！
- ・「保育基礎」のことを授業で取り扱う→「道徳」や「学活」の時に時間を使ってやる
- ・住んでいる地域の支援制度の認知度を高める
- ・子どもの行事などを夫婦で行ったり、子どもの状況を夫婦内で共有しよう！
- ・「個人の意識を育てる活動」（育児の大変さを知る、小・中学校から男性の育児に関する授業を取り入れる、男性が参加できる育児イベントを行う 等）
- ・「会社ができること」（育休制度をわかりやすく説明できる会社のページを作る、上司との面談の機会を設ける 等）

②若い世代が結婚するきっかけづくりとは？（C、D）

- ・中高生が使えるマッチングアプリ開発
- ・趣味などが同じ人が集まる ○○好きの会～みたいな
- ・男性の為の料理教室を開く！（女性は食べる係）
- ・女だから、男だからという考えをなくす
- ・学生の時にブライダル見学などを行う
- ・家具プレゼント
- ・結婚費用の補助制度を作る
- ・幸せ講演会
- ・少女マンガ普及
- ・結婚の良いところをたくさん知ってもらう
- ・夫婦別姓が可能な体制づくりをする
- ・ジェンダーの考え方をもっと広める
- ・スポーツ大会、旅行に行く、他校との交流、男性のための料理教室

③若者が住みたいと思える魅力あるまちとは？（E、F）

- ・若者が率先となって動くまち
- ・29歳以下の男女は住民税一部免除される町
- ・参加型にする（自然）
- ・無料または安く利用できる自習室を作る
- ・映画館が24時間営業して視聴できる
- ・子どもの遊べる場が沢山あるまち
- ・交通手段を増やす
- ・医療技術が充実しているまち
- ・学生でも無料の検診が受けられる
- ・街がきれい →今ある自然を大切にす
- ・多様性があふれた町
- ・若者の意見が通りやすい
- ・理想の施設（楽しいイベントが1年通して沢山ある街、若者向けのお店がある（服・食）、おいしい食べ物、体を動かす施設がある 等

(グループワークの様子)



7 結果の概要

Aグループ テーマ：男性が育児に関わりやすくするには？

A

知識

- 子育てに関する知識が低い、少ない
- 育児の重要性がわからない
- 育児の負担が大きい
- 育児の楽しさを知らない
- 育児の必要性を知らない
- 育児の重要性を知らない
- 育児の楽しさを知らない
- 育児の必要性を知らない

社会

- 育児の機会が十分にない
- 育児の負担が大きい
- 育児の楽しさを知らない
- 育児の必要性を知らない
- 育児の重要性を知らない
- 育児の楽しさを知らない
- 育児の必要性を知らない
- 育児の重要性を知らない

地域

- 育児の機会が十分にない
- 育児の負担が大きい
- 育児の楽しさを知らない
- 育児の必要性を知らない
- 育児の重要性を知らない
- 育児の楽しさを知らない
- 育児の必要性を知らない
- 育児の重要性を知らない

家庭

- 育児の負担が大きい
- 育児の楽しさを知らない
- 育児の必要性を知らない
- 育児の重要性を知らない
- 育児の楽しさを知らない
- 育児の必要性を知らない
- 育児の重要性を知らない
- 育児の楽しさを知らない

解決策

- 育児の機会を増やす
- 育児の負担を減らす
- 育児の楽しさを伝える
- 育児の必要性を伝える
- 育児の重要性を伝える
- 育児の楽しさを伝える
- 育児の必要性を伝える
- 育児の重要性を伝える

問題点

- 育児の機会が少ない
- 育児の負担が大きい
- 育児の楽しさを知らない
- 育児の必要性を知らない
- 育児の重要性を知らない
- 育児の楽しさを知らない
- 育児の必要性を知らない
- 育児の重要性を知らない

男性が育児に関わりやすくするには？

国の調査結果などから日本の男性の育児時間の短さを確認し、その背景（仮説）や問題点として、「偏見」「知識」「地域」「家庭」「社会」に整理してある。その問題点ごとに解決策として、本人、夫婦間、地域、職場などそれぞれの場において風潮や意識改革が必要とする意見が多い。また、「社会」においては、「育休後のキャリアの保障」や「ワークライフバランス」など、国の政策の確実な推進が必要となる解決策となっている。

偏見

問題点：育児＝女（妻）のような考えが残っているのではないかな？

育児は女性がという決めつけを無くす

解決策：育児の文化の風潮を変える

→男性のみで育児についての考えを交換する機会を作る

→偏見を少なくできるように、育児の大変さが分かるデータを見せつける！！

知識

問題点：子育てに関する知識がない、少ない

育児とは何なのか学習する機会がほしい

模範となる存在の現れ

解決策：「保育基礎」のことを授業で取り扱う

→「道徳」や「学活」の時に時間を使ってやる

→文科省にしてもらう

地域

問題点：隣人との関わりがなくなってきている

子育て経験のある人が周りにいない、少ない

ひとり親

地域の人とのかかわりがない

子育ての相談をする相手がいない

解決策：住んでいる地域の支援制度の認知度を高める

→オムツ等の実技講習の前に、保育育児についての講習をしてほしい

→子育て支援についての相談できる場所を作る！！

家庭

問題点：家族での協力体制

男性でも行うことができる育児を分担して行う

解決策：子どもの行事などを夫婦で行ったり、子どもの状況を夫婦内で共有しよう！

→子どもの行事を書く専用のカレンダーを作る

→有給休暇をもっと取得しやすくする

→家庭内の仕事の分担を決める（内容はご家庭のやり方次第）

社会

問題点：育児支援の充実

仕事の都合がつきにくい（勤め先の問題）

厳しい労働条件と経済状況

共働き

解決策1：育休後のキャリアの保障

→育休を取得した際、動機や後輩と比べ、キャリアが遅れてしまうことがある⇒収入の低下

解決策2：男女関係なく育休や子供の行事・体調不良の際に休みの取りやすい環境を会社を作る！

解決策3：ワークライフバランスを考え、育児をする時間をとる

→会社側が育休などを積極的にとらせる

◇事前収集資料

6歳未満の子どもをもつ夫婦の1日の育児時間（内閣府「男女共同参画白書」平成30年度より）

男性が育児に関わりやすくするためのアイデアとして意見の多かった「育休を取りやすくする」を中心に個人、会社、国のそれぞれでできることとして掘り下げてある。

「個人の意識を育てる活動」では、幼少期からの男性の意識を変えていく教育を普及させるなど、「会社ができること」では、「理想とする会社像」をあげた上で、それを実現していくために会社の育休制度の周知・啓発や社内コミュニケーションの活性化などのアイデアが整理されている。

「国ができること」としては、選挙への参加や育休の義務化となっている。

育休

- ・会社側が育休を取りやすい環境を作る
- ・男性も育休を取りやすくする、取得 OK にする

個人の意識を育てる活動

- ・パパ友会的なものをつくる
- ・男女の壁をなくす！
- ・育児の大変さを知る
- ・男性の育児教育を普及させる
- ・小・中学校から男性の育児に関する授業を取り入れる
- ・男性が参加できる育児イベントを行う
- ・お父さん向け育児講義を開く
- ・日本の育休制度は〇〇〇

理想とする会社像

- ・上司と仲がいい会社（言い出しやすい）
- ・休んだ人の代わりがいる会社
- ・人手が足りていて休みが取りやすい
- ・人事部からではなく直属の上司から説明を受ける
- ・子供がいる上司がみんな育休を取ったことがある会社



会社ができること

- ・育休制度をわかりやすく説明できる会社のページを作る
- ・上司との面談の機会を設ける
- ・会社内のコミュニケーションの活性化
- ・会社側が育児指導の場を設ける



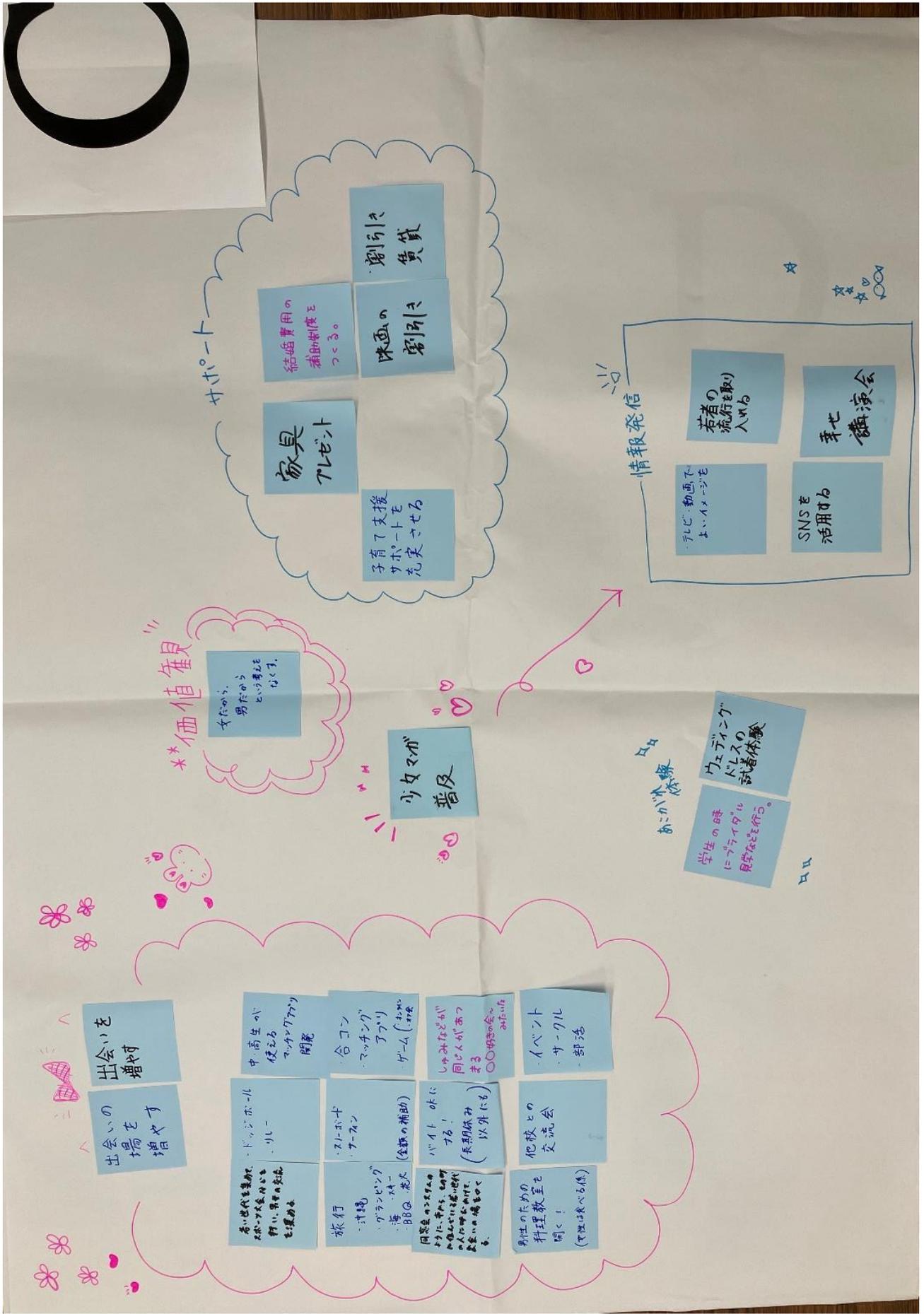
育休制度を取ってもらうメリット

- ・人材獲得ができる

国ができること

- ・選挙への参加率を上げる（メモ：立候補者のマニフェスト等、子育ての考えを聞き投票）
- ・育休の義務化 フランスは7日間の義務化

Cグループ テーマ：若い世代が結婚するきっかけづくりとは？



アイデアを「出会いの場を増やす」「価値感」「あこがれ体験」「サポート」「情報発信」にグルーピングされている。具体的には、「出会いの場」では、若者らしい自分で参加したくなるような場のアイデアが、「サポート」では、家具プレゼントや家賃補助（割引）など結婚への経済的な支援のアイデアが出ている。また、「情報発信」では、若者に伝わりやすい動画やSNS、マンガなど手段による発信や「幸せ講演会」などのアイデアがある。

そのほか「あこがれ体験」など、若者が「参加したい」、「あったらいい」という視点で多くの意見が出ている。

出会いの場を増やす

- ・若い世代を集めてスポーツ大会などを行い、男女の交流を深める ドッジボール・リレー
- ・中高生が使えるマッチングアプリ開発
- ・旅行
 - …沖縄、グランピング、海、スキー、BBQ、花火、スノーボード、サーフィン（金額の補助）
- ・合コン、マッチングアプリ、ゲーム（オンライン、オフ会）
- ・同窓会のシステムのように、市からその町に住んでいる若い世代の人に呼び掛けて、出会いの場を作る
- ・バイト OK にする！（長期休み以外にも）
- ・趣味などが同じ人が集まる ○○好きの会～みたいな
- ・男性の為の料理教室を開く！（女性は食べる係）
- ・他校との交流会
- ・イベント、サークル、部活

価値観

- ・女だから、男だからという考えをなくす

あこがれ体験

- ・学生の時にブライダル見学などを行う
- ・ウエディングドレスの試着体験

サポート

- ・家具プレゼント
- ・結婚費用の補助制度を作る
- ・子育て支援サポートを充実させる
- ・映画の割引
- ・割引き 賃貸

情報発信

- ・テレビ・動画で良いイメージを
- ・若者の流行を取り入れる
- ・SNS を活用する
- ・幸せ講演会

- ・少女マンガ普及

「結婚したくなるためには」、「出会う為には」としてアイデアが整理されている。

また、「結婚したい理由」、「結婚したくない理由」について意見を出し合い、共有したことが伺える。

「結婚したくなるためには」では、出たアイデアの掘り下げた結果として、「夫婦別姓が可能な体制づくりをする」「職場で結婚しやすい環境を作る」など具体的な解決策もみられる。

また、「結婚したくない理由」の解決策として、子どもに対しての支援制度を充実させる（お金面）などがでている。

○結婚したくなるためには

- ・結婚することでできることを増やす
- ・結婚している人が結婚するメリットについてもプレゼンする
- ・結婚の良さを聞く
- ・結婚して良いことを伝える
- ・結婚の良いところをたくさん知ってもらう
- ・体験談を聞く
- ・結婚制度を考え直す

- ↳ 夫婦別姓が可能な体制づくりをする
- ・子どもの苗字をどうするかなどの問題への対策
- ・同性での結婚を認める
- ・ジェンダーの考え方をもっと広める
- ・職場で結婚しやすい環境を作る

○出会う為には

- ・出合いを増やす
- ・季節のイベントを利用する
- ・マッチングアプリを使う
- ・イベントを開く
- ・若い世代の合コンをひらく
- ・好きな人をつくる
- ・交流の場を作る
- ・男女で楽しめるイベント
- ・BBQ、ポーリングなど
- ・スポーツ大会、旅行に行く、他校との交流、男性のための料理教室

○結婚したい理由

- ・結婚してからできることもあるから結婚する
- ・家庭を築きたい
- ・好きな人と一緒に過ごしたい
- ・自分の子どもがほしい

○結婚したくない理由

- ・自分の時間が少なくなる
- ・自分ややりたいことに集中したい
- ・若いうちに楽しみたい
- ・相手の家族と良い関係を築くのが大変
- ・お金がない
- ・子どもが産まれたらお金がもらえる制度を作る

- ↳ 子どもに対しての支援制度を充実させる（お金面）
- ・国の制度などを上手く利用する

E グループ テーマ：若者が住みたいと思えるまちとは？

E

若者

若者が率先して動くまち

SNS活用 (SNSで市の活動が定期的にアップする)

ラジオ番組の放送

市で社会人サークルやイベントを開催してもらう

税金

29歳以下の男女は住民税の一部免除・免除される町

税金

が人1人

自然

山道の安全をかしほ

自然の奇麗なまち

自然に囲まれた環境で川魚がつかれる施設がほしい

参加型にお (自然)

緑の町並みを作る

商業・イベント

カフェ

体育館

商業施設を増やす

洋服などの種類を増やす (無印・GU)

インターネットカフェをこら (未成年可)

ショッピングモールなどの施設を増やす

映画館が24時間営業して視聴できる

人が集まりやすいイベントを作る

子ども遊べる場が沢山あるまち

室内の遊べる場を作る (熱中症対策)

イベントが多いまち

イベントをこらす

交通

事件、事故が少ないまち

道の整備

交番を開設。10分間隔以上に35.

交通費が安いまち

交通手段を増やす

学習

学習環境が整っているまち

月間制のワークショップスペースがほしい

無料お茶室で利用できる自習室をこらす

医療

医療機関が充実しているまち

学生でも差別なく利用できる

鹿児島市の高い技術を取り入れる

アイデアを「若者」「税金」「自然」「自習」「商業・イベント」「交通」「医療」にグルーピングされている。「あったらいいな」「こうなるといいな」の視点が多い中、「若者」では、「若者が率先となって動くまち」や情報の発信などまちづくりへ参加意向がうかがえる。

若者

- ・若者が率先となって動くまち
- ・SNS 活用（SNS で市の活動を定期的にアップする）
- ・ラジオなどに出演する
- ・市で社会人サークルやイベント周知を行ってもらう

税金

- ・29 歳以下の男女は住民税一部免除される町
- ・税金還元

自然

- ・山などの安全を確保
- ・自然が綺麗なまち
- ・自然に囲まれた環境で、川魚が釣れる施設が欲しい
- ・参加型にする（自然）

自習

- ・学習環境が整っているまち
- ・月額制のワーキングスペースが欲しい
- ・無料または安く利用できる自習室を作る



- ・インターネットカフェを作る（未成年可）



商業・イベント

- ・カフェ
- ・体育館
- ・商業施設を増やす
- ・洋服などの種類を増やす（無印・GU）
- ・ショッピングモールなどの施設が多いまち
- ・映画館が 24 時間営業して視聴できる
- ・人が集まりやすい施設を作る
- ・子どもの遊べる場が沢山あるまち
- ・室内の遊び場を作る（熱中症対策）
- ・テーマパークが多いまち
- ・イベントを増やす

交通

- ・事件、事故が少ないまち
- ・道の整備
- ・交番を開け、パトロールするようにする
- ・交通費などが安いまち
- ・交通手段を増やす

医療

- ・医療技術が充実しているまち
- ・学生でも無料の検診が受けられる
- ・鹿児島市の高い技術を取り入れる

- ・緑の羽根募金を行う

Fグループ テーマ：若者が住みたいと思えるまちとは？

The sticky notes are organized into several columns:

- Column 1 (Natural Environment):**
 - 自然環境
 - 自然が多い
 - 自然豊か
 - 空気がおいしい
 - 街がきれいな
 - 今ある自然を大切に
 - 地球温暖化対策
- Column 2 (Aging Population & Social Interaction):**
 - 少子高齢化
 - 男女の交流が多い
 - ↓
 - ナイトクラブ
 - フェス
 - 優しい人が多い
 - 活気がある
 - 多様性がある
 - 若者の意見が取りやすい
- Column 3 (Transportation):**
 - 交通機関
 - 交通手段が多い
 - 電車が多い
 - ↓
 - インフラが整っている
 - 給料が高い
- Column 4 (Medical Care):**
 - 医療
- Column 5 (Ideal Facilities):**
 - 理想の施設
 - 公共施設が沢山ある
 - テニスコートがある
 - ファーストクラスイベントの場所
 - 大きいショッピングモール、映画館
 - 食べ物
 - 楽しいと思える
 - 楽しいイベントが沢山ある
 - 流行にのった街
 - 若者向けの店がある(服・食)
 - おいしい食べ物
 - 体を動かす施設がある
 - スポーツができる
 - 観光スポット

A large black letter 'F' is pasted at the bottom center of the page.

アイデアを「自然環境」「少子高齢化」「優しい人が多い」「交通機関」「理想の施設」にグルーピングされたほか「給料が高い」「医療」の意見があった。「あったらいいな」「こうなるといいな」の視点が多い中、霧島市の特性の1つである「自然環境」に若者も魅力を感じている様子がうかがえ、自然環境を活かし、守っていくアイデアをもう少し具体的に若者の意見を聞きたいところである。また、「多様性があふれた町」、「若者の意見が通りやすい」の意見を「優しい人が多い」とグルーピングしたところがおもしろい。

自然環境

- ・自然が多い
 - ・自然が豊か
 - ・空気がおいしい
 - ・街がきれい
- 今ある自然を大切にする
地球温暖化対策

少子高齢化

- ・男女の交流が盛ん
- ナイトクラブ、フェス

優しい人が多い

- ・活気がある
- ・多様性があふれた町
- ・若者の意見が通りやすい

交通機関

- ・交通手段が多くて安い
 - ・電車が多い
- インフラが整っている

給料が高い

医療

理想の施設

- ・公共施設が沢山ある街
- ・テーマパークがある
- ・アーティストがライブ・イベントする場所
- ・大きいショッピングモール、映画館
- ・楽しいと思える
- ・楽しいイベントが1年通して沢山ある街
- ・流行にのった街
- ・若者向けのお店がある（服・食）
- ・おいしい食べ物
- ・体を動かす施設がある
- ・スポーツができる
- ・観光スポット